古墳時代

名前

問1　徳島県と香川県を結ぶ道路の建設予定地周辺など、四国地方においても複数の「前方後円墳」を含む古墳群が確認されています。このように、近畿地方を拠点とする勢力が採用した墓の形式が全国各地へ広まった事実は、当時の政治状況についてどのようなことを示していますか。
（2023年 愛知県公立入試 類似）

1. 遣唐使によってもたらされた国風文化が、地方の豪族の間で流行していたこと
2. 近畿地方を拠点とする大和政権の政治的な影響力が、地方へと及んでいたこと
3. 多賀城を中心とした東北地方の勢力が、全国を統一する力を持っていたこと
4. 仏教の伝来により、古墳に代わって大規模な寺院が地方に建立され始めたこと

問2　4世紀から7世紀頃にかけて、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移住し、漢字や儒教、仏教などの大陸文化や、優れた製作技術を伝えた人々を何と呼びますか。（2021年 島根県公立入試 類似）

1. 遣隋使
2. 渡来人
3. 御家人
4. 防人

問3　古墳時代の大仙古墳やその出土品について述べた文章として、正しいものを1つ選びなさい。（2026年 徳島県公立入試 類似）

1. 大仙古墳は弥生時代に造られた日本最大級のお墓である。
2. 大仙古墳は前方後円墳と呼ばれる形状を持ち、周囲には埴輪が並べられた。
3. 大仙古墳からは、副葬品として縄文時代と同じ土偶が出土している。
4. 大仙古墳などの副葬品には金属器は含まれず、土器のみが納められた。

問4　群馬県の綿貫観音山古墳から出土した資料などに見られる、灰色で硬く焼き締められた土器の製作上の特徴について述べた文として、最も適切なものはどれか。（2021年 群馬県公立入試 類似）

1. 朝鮮半島から伝わった技術を使い、穴窯の中で酸素を制限しながら高温で焼かれた
2. 日本列島で古くから用いられてきた伝統的な技法で、野外で比較的低い温度で焼かれた
3. 中国大陸の青銅器の影響を強く受け、表面に複雑な幾何学文様を彫り込んで焼かれた
4. 稲作が普及し始めた時期に、表面に縄目の文様をつけてから乾燥させて焼かれた

問5　大陸から漢字、儒教、仏教などが伝えられた時期の日本において、新たに生産が始まった須恵器の特徴とその背景について述べた説明として、正しいものはどれか。（2023年 高知県公立入試 類似）

1. 国内の農民が独自に技術を開発し、「千歯こき」を用いて土を精製することで作られた。
2. 中国からの使者が技術を伝え、平らな地面に薪を積み上げる「野焼き」によって低温で焼成された。
3. 朝鮮半島から来た渡来人が技術を伝え、山の斜面を利用した「登り窯」で高温で焼成された。
4. 弥生時代からの伝統的な製法を守り、稲作の普及とともに東日本を中心に広まった。

問6　古墳時代から奈良時代にかけて、朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移り住み、当時の日本に新しい文化や技術を伝えた人々を何と呼びますか。（2023年 岡山県公立入試 類似）

1. 防人
2. 遣唐使
3. 南蛮人
4. 渡来人

問7　古墳時代に、前方後円墳という特定の形式が日本各地の有力者の墓として採用されたことは、当時の政治状況においてどのようなことを意味していますか。（2018年 長崎県公立入試 類似）

1. 大陸から伝来した仏教に基づき、全国一斉に寺院の建立が始まったこと
2. 各地の豪族が独自の宗教観に基づき、異なる形式の墓を競って造ったこと
3. 狩猟・採集中心の生活から、稲作を中心とする社会へ移行し始めたこと
4. 近畿地方のヤマト政権（大和朝廷）の影響力が各地に及んでいたこと

問8　5世紀ごろに造られた大仙古墳のような巨大な前方後円墳について、このような大規模な墳墓が築かれた歴史的な背景として最も適切な説明はどれか。（2020年 三重県公立入試 類似）

1. 大陸から伝わった稲作の技術を普及させるために、神を祀る祭祀場を各地に作ったため。
2. 各地域の小国が、他国からの侵略を防ぐための軍事的な要塞として築いたため。
3. ヤマト政権の大王が、膨大な労働力を動員できるほどの強大な権力を持っていたことを示すため。
4. 仏教の伝来とともに、死者を弔うために巨大な寺院を建てる習慣が広まったため。

問9　埼玉県にある稲荷山古墳からは、表面に文字が刻まれた金錯銘鉄剣が出土しました。この鉄剣に刻まれている「ワカタケル大王」という人物は、当時の中国の歴史書に記されている「倭の五王」のうちの誰を指すとされていますか。（2017年 大阪府公立入試 類似）

1. 済（せい）
2. 興（こう）
3. 珍（ちん）
4. 武（ぶ）

問10　古墳時代の日本において、朝鮮半島から伝えられた技術によって作られるようになった、高温で焼成される灰色の硬い土器を何と言いますか。
（2023年 新潟県公立入試 類似）

1. 須恵器
2. 埴輪
3. 弥生土器
4. 縄文土器

問11　5世紀頃、大和政権の王（倭の五王）が中国の南朝へ繰り返し使者を送った主な目的として、最も適切な説明はどれか。（2020年 香川県公立入試 類似）

1. 朝鮮半島南部における軍事的な指揮権を認めさせ、鉄資源の確保などの面で他国より優位に立つため。
2. 隋に対して対等な立場での外交を求め、小野妹子を派遣して中国の進んだ律令制度を学ぶため。
3. 唐の勢力拡大に対抗するため、朝鮮半島の百済や新羅と結んで軍事同盟を強化するため。
4. 中国の北朝から公式に仏教を取り入れることで、鎮護国家の思想に基づいた国づくりを行うため。

問12　航空写真などの上空からの視点で見ると、前方部が方形（四角形）、後方部が円形をしており、全体として巨大な鍵穴のような形状をしている日本独自の古墳の名称として適切なものはどれか。（2020年 佐賀県公立入試 類似）

1. 円墳
2. 前方後円墳
3. 八角墳
4. 方墳

問13　大和政権の時代、大陸から移住してきた渡来人がもたらした技術や文化について述べたものとして、最も適切なものはどれか。（2023年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 九州沿岸を守るために配置された防人による防衛の仕組み
2. 唐の法律にならって作られた大宝律令などの統治制度
3. 遣隋使によって直接もたらされた、隋の進んだ政治制度
4. 金属を精錬する技術や、高温で焼いて作る硬い土器である須恵器の製作技術

答え合わせ・解説

問1	答え 2 近畿地方を拠点とする大和政権の政治的な影響力が、地方へと及んでいたこと	古墳時代、近畿地方に拠点を置いた大和政権（ヤマト王権）は、各地の豪族と政治的な同盟を結んだり、支配下に置いたりすることで勢力を拡大しました。前方後円墳という特定の形式の古墳が各地に築かれたことは、その地域の豪族が大和政権の支配体制や序列に組み込まれたことを象徴しています。多賀城は奈良時代の東北経営の拠点であり、国風文化は平安時代の中期に発達した文化であるため、古墳時代の出来事とは異なります。
問2	答え 2 渡来人	朝鮮半島での動乱などを背景に、優れた技術や知識を持つ人々が日本列島へ渡ってきました。彼らは大和政権に仕え、文字（漢字）の記録や外交、土木技術、金属工芸などの分野で重要な役割を果たし、日本の古代国家形成に大きな影響を与えました。
問3	答え 2 大仙古墳は前方後円墳と呼ばれる形状を持ち、周囲には埴輪が並べられた。	大仙古墳は古墳時代に造られた日本最大の前方後円墳であり、その周囲には埴輪が並べられました。土偶は縄文時代の遺物であり、古墳の副葬品には銅鏡や鉄剣などの金属器も含まれます。
問4	答え 1 朝鮮半島から伝わった技術を使い、穴窯の中で酸素を制限しながら高温で焼かれた	群馬県の綿貫観音山古墳から出土したような灰色の硬質な土器は須恵器と呼ばれます。これは5世紀頃に朝鮮半島から伝来した技術で、斜面に作った穴窯を使用することで、野焼きでは不可能な1000度以上の高温状態を保って焼成されました。この製法によって粘土が焼き締まり、金属のような硬さを持つ土器が誕生しました。
問5	答え 3 朝鮮半島から来た渡来人が技術を伝え、山の斜面を利用した「登り窯」で高温で焼成された。	須恵器の生産は、大陸からの高度な技術移転の象徴です。それまでの土器が赤褐色で比較的脆かったのに対し、熱効率の良い「登り窯」を使用することで酸素を制限した還元炎焼成が可能となり、硬質の青灰色の土器が誕生しました。同時期には文字（漢字）の使用や学問（儒教）も伝えられており、大陸との交流が当時の社会制度や技術を大きく発展させたことがわかります。選択肢にある「千歯こき」は江戸時代の農具であり、時代が異なります。
問6	答え 4 渡来人	朝鮮半島での戦乱などを背景に、多くの人々が日本列島へ移住しました。彼らは、ため池を作る土木技術や金属加工、機織りなどの実習的な技術だけでなく、漢字や儒教、仏教などの思想や文化も日本に伝え、日本の社会や国家の形成に大きな役割を果たしました。
問7	答え 4 近畿地方のヤマト政権（大和朝廷）の影響力が各地に及んでいたこと	鍵穴のような特有の形状が標準化され、各地で模倣されたことは、その地域の有力者が近畿のヤマト政権と政治的な同盟関係や主従関係を結んでいたことを示しています。これにより、ヤマト政権を中心とした政治体制が広まっていったことがわかります。
問8	答え 3 ヤマト政権の大王が、膨大な労働力を動員できるほどの強大な権力を持っていたことを示すため。	大仙古墳のような巨大な前方後円墳の建設には、延べ数百万人とも言われる膨大な労働力と長い年月が必要でした。これほど大規模な墓を築くことができた事実は、被葬者である大王が近畿地方を中心として、広範囲にわたる民衆や地方の豪族を統制し、支配下に置いていたことを証明しています。
問9	答え 4 武（ぶ）	稲荷山古墳から出土した鉄剣に記された「獲加多支鹵大王（ワカタケル大王）」は、中国の歴史書『宋書』倭国伝に登場する倭王「武」と同一人物であると考えられています。武は、日本の記紀に登場する雄略天皇にあたるとされています。
問10	答え 1 須恵器	それまでの日本で作られていた赤褐色の土師器（はじき）とは異なり、朝鮮半島から伝わった「あな窯」を用いて1000度以上の高温で焼き上げる製法が特徴です。この技術は渡来人によってもたらされ、貯蔵用や儀式用の器として広く普及しました。
問11	答え 1 朝鮮半島南部における軍事的な指揮権を認めさせ、鉄資源の確保などの面で他国より優位に立つため。	5世紀の大和政権は、国内での支配力を強めるとともに、大陸から伝来する鉄資源を安定して確保しようとしていました。そのために中国の南朝（宋など）へ朝貢を行い、朝鮮半島南部における軍事的な指揮権や政治的な地位を正式に認めさせることで、周辺諸国に対して有利な立場を得ようとした背景があります。
問12	答え 2 前方後円墳	3世紀後半から6世紀にかけて、ヤマト政権の勢力下にあった地域で築かれた日本独自の形式です。大阪府の大仙古墳（伝仁徳天皇陵）に代表されるように、大規模なものは当時の有力者の権力を象徴しています。
問13	答え 4 金属を精錬する技術や、高温で焼いて作る硬い土器である須恵器の製作技術	渡来人は専門的な技術を持った集団として、大和政権下で重用されました。彼らが伝えた須恵器は、それまでの弥生土器や古墳時代の土師器（はじき）とは異なり、穴窯を用いて1000度以上の高温で焼成された青灰色の硬い土器です。また、鉄製品の加工や農具の改善なども行われ、日本の農業や生活様式に劇的な変化を与えました。

古墳時代

名前

問1　5世紀後半の大和政権において、最高権力者が名乗った称号は何ですか。埼玉県の稲荷山古墳から出土した金錯銘鉄剣に、「獲加多支鹵」という人名に続けて刻まれている名称を答えなさい。（2019年 長崎県公立入試 類似）

1. 執権
2. 天皇
3. 将軍
4. 大王

問2　古墳時代に、前方後円墳という特定の形式が日本各地の有力者の墓として採用されたことは、当時の政治状況においてどのようなことを意味していますか。（2018年 長崎県公立入試 類似）

1. 狩猟・採集中心の生活から、稲作を中心とする社会へ移行し始めたこと
2. 大陸から伝来した仏教に基づき、全国一斉に寺院の建立が始まったこと
3. 近畿地方のヤマト政権（大和朝廷）の影響力が各地に及んでいたこと
4. 各地の豪族が独自の宗教観に基づき、異なる形式の墓を競って造ったこと

問3　5世紀頃、日本の王たちが中国の皇帝に使節を送った背景や目的として、最も適切な説明はどれですか。（2017年 鳥取県公立入試 類似）

1. 遣唐使を廃止することで大陸との交流を制限し、日本独自の国風文化を育むとともに、律令国家の形成を早めるため。
2. 仏教を日本に広めるために、中国から高僧を招くとともに、寺院建築や経典などの進んだ文化を公的に導入するため。
3. 中国の皇帝から地位の承認を得ることで、朝鮮半島での軍事的外交関係を有利に進めたり、高度な技術を導入して統治を強固にするため。
4. 後漢の皇帝から「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かり、九州北部における小国の連合を束ねる権威を確立するため。

問4　5世紀の大和政権は、朝鮮半島から得た鉄資源をどのように活用して国内の支配を広げたとされていますか。当時の状況を説明したものとして最も適切なものを選んでください。（2019年 群馬県公立入試 類似）

1. 鉄製の鏡や装飾品を大量に作り、それらを各地の豪族に配ることで宗教的な権威を認めさせた。
2. 鉄製の大型船を建造して中国の唐と直接貿易を行い、最新の法制度を取り入れることで中央集権化を進めた。
3. 鉄製の武器や鎧を量産して軍事力を高め、関東から九州にかけての広範囲な地域の豪族を支配下に置いた。
4. 鉄製の貨幣を鋳造して全国に流通させ、租・庸・調の税制を確立することで経済的に支配した。

問5　5世紀頃、大阪府堺市に築かれた大仙古墳（大仙陵古墳）のような巨大な前方後円墳が造られた歴史的な背景を説明したものとして、最も適切なものを選びなさい。（2018年 熊本県公立入試 類似）

1. 「大王」と呼ばれる首長を中心とした大和政権（ヤマト王権）の権力が強大化した。
2. 律令制度が確立し、戸籍に基づいて全国の民衆を大規模な土木作業に動員できるようになった。
3. 稲作が普及し、食料を貯蔵するための大規模な高床倉庫と一体化した墓が求められた。
4. 仏教の伝来とともに寺院建築の技術が導入され、それが大規模な墳墓の造成に利用された。

問6　古墳時代における渡来人の活動と、日本社会に与えた影響について述べた文として、正しいものはどれか選びなさい。（2021年 和歌山県公立入試 類似）

1. 朝鮮半島から移住し、漢字や仏教の伝来、須恵器などの陶質土器の製作技術を日本に伝えた。
2. 平安時代に地方の政治が乱れる中、自らの土地を守るために武装し、後の武士の源流となった。
3. 九州北部の防衛のために東国から派遣され、唐や新羅による侵攻に備えて沿岸を警備した。
4. 中国の優れた制度や文化を吸収するために日本から派遣され、小野妹子らがその代表である。

問7　5世紀頃、ヤマト政権の王が中国の南朝へ使いを送った主な目的として、最も適切な説明はどれか。（2020年 鳥取県公立入試 類似）

1. 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号と金印を授かり、国内の豪族に対して自らの正当性を示すため
2. 朝鮮半島南部における軍事的な指揮権の承認を得て、武器や農具の原料となる鉄資源を安定的に確保するため
3. 中国の進んだ律令制度を学び、仏教を公認することで、天皇を中心とした中央集権体制を確立するため
4. 白村江の戦いで敗れた後、唐との国交を回復し、大陸の最新文化や技術を積極的に導入するため

問8　古墳時代における渡来人の移動と技術伝来が、当時の日本列島の社会に与えた影響について述べた文章として、最も適切なものはどれですか。（2025年 岩手県公立入試 類似）

1. 全国に国分寺や国分尼寺が建てられ、仏教を中心とした国家体制が完成した。
2. 青銅器と鉄器が同時に伝わり、金属器を使った道具の製造が初めて行われた。
3. 須恵器の製造技術や漢字・儒教などが伝わり、社会の技術や文化が大きく向上した。
4. 大陸からの技術移転により、日本列島で初めて米作り（水稲耕作）が始まった。

問9　古墳時代に普及した「須恵器」の製作方法や特徴に関する説明として、最も適切なものはどれですか。（2018年 長崎県公立入試 類似）

1. 木版印刷の技術を応用して表面に色が塗られ、庶民の間で流行した。
2. 表面に複雑な縄の模様がつけられ、主に祭祀用の道具として用いられた。
3. 密閉された穴窯などを用いて高温で焼かれ、硬く灰色をしている。
4. 野焼きによって比較的低い温度で焼かれ、表面が赤褐色をしている。

問10　埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には「獲加多支鹵大王」という称号が刻まれています。これと同様の称号が記された鉄刀が熊本県の江田船山古墳からも出土していることから推測できる、5世紀後半の日本の政治状況として最も適切な説明を選んでください。（2021年 大阪府公立入試 類似）

1. 大和政権（ヤマト王権）の支配力が、関東から九州におよぶ広い範囲に広がっていた。
2. 邪馬台国の卑弥呼による統治が、近畿地方を中心に安定していた。
3. 各地域の豪族が独自の王号を名乗り、中国の王朝と直接外交を行っていた。
4. 東北地方から九州地方まで、完全に統一された律令国家が成立していた。

問11　5世紀ごろ、朝鮮半島における勢力争いや戦乱を避けて日本列島へ移住し、須恵器の製作や金属加工、土木などの高度な技術、および漢字や儒教を伝えた人々を何と呼びますか。（2026年 高知県公立入試 類似）

1. 倭寇
2. 渡来人
3. 朝鮮通信使
4. 防人

問12　古代日本における漢字の伝来とその影響について述べた説明として、最も適切なものはどれですか。大陸から移住してきた人々の活動や、宗教的な背景を踏まえて選びなさい。（2026年 神奈川県公立入試 類似）

1. 渡来人が仏教の経典とともに漢字を伝え、日本人が公的な記録や情報の伝達を行う手段として定着した。
2. 平安時代の貴族が、仏教の教えを分かりやすく書き換えるために、漢字をもとにして日本で初めて文字を作成した。
3. 聖徳太子が大陸へ渡った際、現地で使われていた文字を日本独自の文字として持ち帰り、仏教の布教に用いた。
4. 縄文時代の交易を通じて大陸の文字が広まり、その後、仏教を理解するための補助的な記号として漢字が発明された。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 大王	5世紀の大和政権の盟主は「大王（おおきみ）」と呼ばれていました。埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣には、雄略天皇にあたるとされる「獲加多支鹵（ワカタケル）」の名とともにこの称号が刻まれており、当時の政治体制を示す貴重な史料となっています。天皇という称号が使われ始めるのは、さらに後の7世紀後半（飛鳥時代）になってからです。
問2	答え 3 近畿地方のヤマト政権（大和朝廷）の影響力が各地に及んでいたこと	鍵穴のような特有の形状が標準化され、各地で模倣されたことは、その地域の有力者が近畿のヤマト政権と政治的な同盟関係や主従関係を結んでいたことを示しています。これにより、ヤマト政権を中心とした政治体制が広まっていったことがわかります。
問3	答え 3 中国の皇帝から地位の承認を得ることで、朝鮮半島での軍事的外交関係を有利に進めたり、高度な技術を導入して統治を強固にするため。	5世紀の「倭の五王」は、中国の南朝へ繰り返し使節を派遣しました。当時の倭王は、朝鮮半島における軍事的な指揮権を含む称号を中国の皇帝から授かることで、国際的な地位を確立し、周辺諸国との外交を有利に進める狙いがありました。また、これに伴い鉄製武器の製造技術や須恵器などの新しい技術を大陸から導入し、国内の支配力を高めていきました。
問4	答え 3 鉄製の武器や鎧を量産して軍事力を高め、関東から九州にかけての広範囲な地域の豪族を支配下に置いた。	5世紀の歴史年表や出土品からは、大和政権が朝鮮半島から得た鉄を利用して武力を強化し、その力を背景に関東や九州の豪族を従えていった過程が読み取れます。武人の埴輪が鎧をまとった姿で製作されていることも、武力による支配体制が整えられていたことを裏付けています。
問5	答え 1 「大王」と呼ばれる首長を中心とした大和政権（ヤマト王権）の権力が強大化した。	巨大な古墳の築造には、膨大な労働力と長い年月が必要です。大仙古墳のような大規模な墳墓は、近畿地方の有力な豪族を中心としたヤマト王権が、広範囲の民衆を動員し、多くの資材を集中させることができるほどの強力な政治支配力を確立していたことを裏付けています。
問6	答え 1 朝鮮半島から移住し、漢字や仏教の伝来、須恵器などの陶質土器の製作技術を日本に伝えた。	当時の日本にはなかった高度な知識や技術を持っていた人々に関する記述です。彼らが伝えた「須恵器」は、従来の土師器よりも高温で焼かれた硬い陶質土器であり、生活様式の変化をもたらしました。また、文字（漢字）の導入により、行政や外交などの記録が可能になり、大和政権の組織化が促進されました。
問7	答え 2 朝鮮半島南部における軍事的な指揮権の承認を得て、武器や農具の原料となる鉄資源を安定的に確保するため	5世紀の「倭の五王」は、中国の南朝へ遣使し、朝鮮半島南部での軍事的な優位性を認めさせることで、当時日本国内で産出できなかった鉄資源を安定して入手しようとしました。これにより、強力な武器や効率的な農具を生産し、半島諸国や国内の豪族に対して政治的な優位を保つ狙いがありました。
問8	答え 3 須恵器の製造技術や漢字・儒教などが伝わり、社会の技術や文化が大きく向上した。	古墳時代に朝鮮半島から渡来人が移住したことで、須恵器の製造技術に加えて漢字、儒教、仏教、機織などの高度な文化や技術が伝わり、日本の技術や生活文化が飛躍的に発展しました。
問9	答え 3 密閉された穴窯などを用いて高温で焼かれ、硬く灰色をしている。	須恵器は朝鮮半島の技術に基づき、山の斜面などを利用した穴窯の中で、空気を制限しながら高温で焼き上げられます。この過程で化学反応（還元炎焼成）が起きるため、土器の色が灰色になります。これに対し、同時に使われていた土師器は、弥生土器の流れを汲む伝統的な野焼きの手法で作られていました。
問10	答え 1 大和政権（ヤマト王権）の支配力が、関東から九州におよぶ広い範囲に広がっていた。	遠く離れた埼玉県の稲荷山古墳と熊本県の江田船山古墳の両方から、同一の大王（ワカタケル大王）の名を記した遺物が出土したことは、その大王を中心とする大和政権の権威や支配力が、すでに関東から九州まで広範に及んでいたことを裏付ける有力な証拠となっています。
問11	答え 2 渡来人	4世紀から5世紀にかけての朝鮮半島では、高句麗・百済・新羅の三つの国が勢力を争う不安定な情勢にありました。この動乱を逃れて日本に渡ってきた人々は、大和政権に仕えて特定の技術を持つ集団として組織され、それまでの日本にはなかった最新の技術や文化を広める重要な役割を果たしました。これにより、日本の生産力や政治的な組織化が大きく進みました。
問12	答え 1 渡来人が仏教の経典とともに漢字を伝え、日本人が公的な記録や情報の伝達を行う手段として定着した。	朝鮮半島や中国大陸から移住した渡来人によって、漢字は仏教の経典とともに日本に伝えられました。当時、文字を持たなかった日本列島の人々は、これを受け入れることで歴史の記録や公的な文書の作成、そして宗教の理解を深めることが可能になり、日本の文明化に大きな影響を与えました。

古墳時代

名前

問1　古墳時代に見られる、上から見ると鍵穴のような形（一方が四角く、一方が丸い）をした古墳の特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。（2021年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 近畿地方を本拠とする大和政権の拡大に伴い、各地の首長に受け入れられた形式である
2. 聖徳太子による冠位十二階の制定と同時に、身分を示す墓として推奨された
3. 鎌倉時代に幕府の許可を得た武士のみが、自分の領地に築くことができた
4. 弥生時代に中国大陸から伝わった形式であり、主に北九州地方で多く見られる

問2　4世紀ごろから大和政権と密接な関係を築き、朝鮮半島の南西部に位置していた国を何といいますか。この国は、五経博士による儒教の伝達や、日本への仏教公伝など、大陸文化を日本へ伝える窓口としての役割を果たしました。（2020年 熊本県公立入試 類似）

1. 新羅
2. 百済
3. 魏
4. 高句麗

問3　4世紀から7世紀頃にかけて朝鮮半島や中国大陸から日本列島へ移住した人々は、それまでの土器とは異なる、黒っぽくて硬い「須恵器」の製作技術や、文字としての「漢字」などを伝えました。このような人々を何と呼びますか。（2026年 山形県公立入試 類似）

1. 弥生人
2. 防人
3. 縄文人
4. 渡来人

問4　4世紀から5世紀にかけて、近畿地方を中心に誕生した「前方が方形で後方が円形」という特徴を持つ巨大な墳墓が、九州から東北地方まで広く分布するようになった歴史的背景について述べたものとして、最も適切な説明を選択してください。（2019年 富山県公立入試 類似）

1. 仏教の伝来によって、全国の豪族が共通の形式で墓を作る宗教的義務を負ったため
2. 大陸から渡来した人々が、自分たちの故郷で一般的だった墓の形を全国に広めたため
3. 各地の豪族が、ヤマト王権に対抗するために独自に巨大な墳墓を築くことを競い合ったため
4. ヤマト王権の支配力や政治的な影響力が、近畿地方から日本各地へと拡大したため

問5　巨大な前方後円墳が各地で盛んに造られていた古墳時代の5世紀ごろ、ヤマト王権の王たちは、自らの地位を国際的に認めさせるために中国の王朝へ使節を送りました。このとき、倭の五王が朝鮮半島での軍事的な指揮権などを認めてもらうために交渉を行った相手は、当時の中国のどの勢力ですか。（2024年 栃木県公立入試 類似）

1. 中国の南朝
2. 漢
3. 隋
4. 唐

問6　古墳時代、朝鮮半島から日本列島に移り住んだ人々によって、新たな土器の製作技術が伝えられました。専用の窯（かま）を用いて高温で焼成されることで、それまでの土器に比べて非常に硬く、色が灰色をしていることが特徴の土器を何と呼びますか。（2018年 長崎県公立入試 類似）

1. 土師器
2. 弥生土器
3. 縄文土器
4. 須恵器

問7　5世紀ごろ、朝鮮半島における勢力争いや戦乱を避けて日本列島へ移住し、須恵器の製作や金属加工、土木などの高度な技術、および漢字や儒教を伝えた人々を何と呼びますか。（2026年 高知県公立入試 類似）

1. 渡来人
2. 朝鮮通信使
3. 倭寇
4. 防人

問8　埼玉県にある稲荷山古墳から出土した鉄剣には「獲加多支鹵大王」という称号が刻まれています。これと同様の称号が記された鉄刀が熊本県の江田船山古墳からも出土していることから推測できる、5世紀後半の日本の政治状況として最も適切な説明を選んでください。（2021年 大阪府公立入試 類似）

1. 大和政権（ヤマト王権）の支配力が、関東から九州におよぶ広い範囲に広がっていた。
2. 各地域の豪族が独自の王号を名乗り、中国の王朝と直接外交を行っていた。
3. 邪馬台国の卑弥呼による統治が、近畿地方を中心に安定していた。
4. 東北地方から九州地方まで、完全に統一された律令国家が成立していた。

問9　滋賀県の古保利古墳群のように、この時期に築造された前方後円墳などの古墳文化は、当時の東アジア情勢と深く関わっています。4世紀末から5世紀にかけての、日本（倭）と朝鮮半島諸国との関係についての説明として正しいものを次から選びなさい。（2024年 滋賀県公立入試 類似）

1. 当時の日本は聖徳太子を中心に、隋に対して「日出づる処の天子」で始まる国書を送ることに専念し、半島情勢には介入しなかった
2. 日本は高句麗と連合して百済を攻め、その見返りとして仏教の公伝を受けた
3. 日本は新羅と強固な同盟を結び、高句麗を滅ぼして朝鮮半島北部に領土を広げた
4. 高句麗の好太王（広開土王）の碑文には、倭が海を渡って百済や新羅を破り、高句麗と戦ったことが記されている

問10　古墳時代に大陸からの渡来人がもたらした技術や文化について、当時の状況を説明した文として最も適切なものはどれか。（2024年 鳥取県公立入試 類似）

1. 表面に縄目の文様を施し、食料を煮炊きするための厚手の土器が各地で作られた。
2. 木製農具や石包丁を用いた水田稲作とともに、赤褐色で薄手の土器が広まった。
3. 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。
4. 仏教が伝来し、寺院の屋根を飾るための瓦を焼く技術が初めて日本列島に導入された。

問11　古墳時代の大和政権において、朝鮮半島や中国から渡来した人々（渡来人）が果たした役割や、彼らがもたらした文化的な影響について述べた文として正しいものはどれですか。（2024年 群馬県公立入試 類似）

1. 銅鐸や銅剣などの青銅器を用いた祭祀を広め、巨大な前方後円墳を築いた
2. 稲作を初めて日本に伝え、各地に高床倉庫を持つ集落を形成させた
3. 狩猟や採集に代わる新しい生活様式として、磨製石器の製作技術を広めた
4. 大和政権で外交や財政管理に従事し、仏教などの新しい文化や技術を伝えた

問12　5世紀後半の日本列島において、大和政権の支配力が関東地方から九州地方にまで広く及んでいたことを示す歴史的背景として、最も適切な説明を選びなさい。（2019年 長崎県公立入試 類似）

1. 埼玉県の稲荷山古墳と熊本県の江田船山古墳から、同一の最高権力者である大王の名を刻んだ鉄剣・鉄刀が出土した。
2. 白村江の戦いでの敗北を機に、関東から九州にかけて山城や防人が配置され、軍事的な中央集権化が進んだ。
3. 聖徳太子が十七条の憲法を制定し、地方の豪族に対して大王への忠誠を誓わせる制度が全国に普及した。
4. 邪馬台国の女王である卑弥呼が魏から贈られた親魏倭王の称号を、地方の有力豪族に分け与えて統治した。

問13　古墳時代の日本列島において、大陸から移住してきた渡来人によって伝えられた、青灰色で非常に硬い性質を持つ土器の名前を答えなさい。（2024年 鳥取県公立入試 類似）

1. 土師器
2. 弥生土器
3. 縄文土器
4. 須恵器

答え合わせ・解説

問1	答え 1 近畿地方を本拠とする大和政権の拡大に伴い、各地の首長に受け入れられた形式である	前方後円墳は3世紀後半から造られ始め、大和政権（ヤマト王権）の拡大とともに全国へ普及しました。大阪府にある大山古墳（伝・仁徳天皇陵）のように世界最大級の規模を持つものもあり、これは当時の王の権力の強大さを物語っています。
問2	答え 2 百済	朝鮮半島の南西部に位置した百済は、半島の主導権争いの中で大和政権と友好関係を深めました。この交流を通じて、漢字、儒教、仏教といった高度な大陸文化が日本に導入され、日本の古代国家の形成に大きな影響を与えました。
問3	答え 4 渡来人	4世紀から7世紀にかけて、大陸の戦乱を避けるなどの理由で日本列島に移り住んだ人々は、当時の日本にはなかった高度な技術や文化を伝えました。彼らが伝えた須恵器は、高温で焼くことができる穴窯（あながま）の技術を用いたもので、それまでの赤褐色の土器よりも硬い性質を持っていました。また、漢字の伝来は、その後の大和政権による記録や行政の仕組みを支える基盤となりました。
問4	答え 4 ヤマト王権の支配力や政治的な影響力が、近畿地方から日本各地へと拡大したため	同一形式の巨大な墳墓が広範囲に分布している事実は、中央のヤマト王権と地方の豪族との間に、身分秩序を伴う政治的な結びつきがあったことを示しています。ヤマト王権が各地の豪族を自らの支配体制に組み込んでいく過程で、王権の権威の象徴であるこの形式の古墳が各地で築かれるようになりました。
問5	答え 1 中国の南朝	古墳時代の5世紀、ヤマト王権（倭国）の「讃・珍・済・興・武」という5人の王（倭の五王）は、当時の中国で南側に成立していた「南朝」の諸王朝（宋など）へ使節を送りました。これは、中国の皇帝から称号を得ることで、国内での支配権を固めるとともに、朝鮮半島における政治的・軍事的な立場を他国に対して有利に進める狙いがありました。
問6	答え 4 須恵器	古墳時代、朝鮮半島から移住した渡来人によって、穴窯（あながま）を用いた最新の作陶技術がもたらされました。従来の土師器（はじき）が野焼きで焼かれる赤褐色の土器であったのに対し、須恵器は1000度以上の高温で焼成されるため、実用性が高い硬質な土器として普及しました。
問7	答え 1 渡来人	4世紀から5世紀にかけての朝鮮半島では、高句麗・百済・新羅の三つの国が勢力を争う不安定な情勢にありました。この動乱を逃れて日本に渡ってきた人々は、大和政権に仕えて特定の技術を持つ集団として組織され、それまでの日本にはなかった最新の技術や文化を広める重要な役割を果たしました。これにより、日本の生産力や政治的な組織化が大きく進みました。
問8	答え 1 大和政権（ヤマト王権）の支配力が、関東から九州におよぶ広い範囲に広がっていた。	遠く離れた埼玉県の稲荷山古墳と熊本県の江田船山古墳の両方から、同一の大王（ワカタケル大王）の名を記した遺物が出土したことは、その大王を中心とする大和政権の権威や支配力が、すでに関東から九州まで広範に及んでいたことを裏付ける有力な証拠となっています。
問9	答え 4 高句麗の好太王（広開土王）の碑文には、倭が海を渡って百済や新羅を破り、高句麗と戦ったことが記されている	当時の日本（倭）は、鉄資源の確保や先進文化の導入を求めて朝鮮半島南部への進出を図りました。高句麗にある好太王碑には、南下政策を進める高句麗と、百済や加羅を支援して戦った倭の軍勢についての記録が残されており、当時の激しい抗争の様子を裏付けています。
問10	答え 3 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。	4世紀から5世紀にかけて、大陸や朝鮮半島から多くの渡来人が移住し、新しい技術を日本列島に伝えました。彼らは金属器の加工や織物の技術とともに、密閉された穴窯で焼成する須恵器の技術をもたらしました。この技術により、従来の土器よりも高い強度を持つ器の生産が可能となりました。他の選択肢は縄文時代、弥生時代、または飛鳥時代以降の出来事です。
問11	答え 4 大和政権で外交や財政管理に従事し、仏教などの新しい文化や技術を伝えた	朝鮮半島や中国から日本に移り住んだ渡来人は、当時の先進的な知識を持っていたため、大和政権において外交文書の作成や財政の記録・管理といった重要な実務を担いました。彼らを通じて、6世紀の百済からの仏教伝来に代表されるような、大陸の新しい学問、宗教、技術が日本に定着し、国家の仕組みが整えられていきました。
問12	答え 1 埼玉県の稲荷山古墳と熊本県の江田船山古墳から、同一の最高権力者である大王の名を刻んだ鉄剣・鉄刀が出土した。	埼玉県の稲荷山古墳で出土した鉄剣には「獲加多支鹵大王（ワカタケルオオキミ）」という文字が刻まれていました。同様の銘文を持つ鉄刀が熊本県の江田船山古墳からも見つかっていることから、5世紀後半には近畿地方の大和政権が、関東から九州に至るまでの広い範囲を勢力下に置いていたことが実証されています。
問13	答え 4 須恵器	朝鮮半島から渡来した人々が伝えた技術により、古墳時代から作られるようになった土器です。それまでの土器が野焼きで焼かれていたのに対し、斜面を利用した穴窯（あながま）を使い、1000度以上の高温で焼き上げるため、非常に硬質（こうしつ）で液体が漏れにくいという特徴があります。

古墳時代

名前

問1　5世紀の古墳から出土する、甲冑（よろい・かぶと）を身にまとい、背中に矢を背負った武人の姿を模した土製品について、当時の社会状況を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。（2026年 群馬県公立入試 類似）

1. 人物埴輪と呼ばれ、当時の緊迫した東アジア情勢を反映した軍事文化を伝えている
2. 七支刀と呼ばれ、百済の王から贈られた最新の鉄製武器の威力を示している
3. 弥生土器と呼ばれ、大陸から伝わった金属器の使用方法を儀礼的に示している
4. 唐から伝来した仏教儀礼に基づき、寺院の門に配置される守護神を表している

問2　巨大な前方後円墳が各地で盛んに造られていた古墳時代の5世紀ごろ、ヤマト王権の王たちは、自らの地位を国際的に認めさせるために中国の王朝へ使節を送りました。このとき、倭の五王が朝鮮半島での軍事的な指揮権などを認めてもらうために交渉を行った相手は、当時の中国のどの勢力ですか。（2024年 栃木県公立入試 類似）

1. 漢
2. 中国の南朝
3. 隋
4. 唐

問3　5世紀頃、ヤマト政権の王が中国の南朝へ使いを送った主な目的として、最も適切な説明はどれか。（2020年 鳥取県公立入試 類似）

1. 中国の進んだ律令制度を学び、仏教を公認することで、天皇を中心とした中央集権体制を確立するため
2. 魏の皇帝から「親魏倭王」の称号と金印を授かり、国内の豪族に対して自らの正当性を示すため
3. 朝鮮半島南部における軍事的な指揮権の承認を得て、武器や農具の原料となる鉄資源を安定的に確保するため
4. 白村江の戦いで敗れた後、唐との国交を回復し、大陸の最新文化や技術を積極的に導入するため

問4　古墳時代に大陸からの渡来人がもたらした技術や文化について、当時の状況を説明した文として最も適切なものはどれか。（2024年 鳥取県公立入試 類似）

1. 木製農具や石包丁を用いた水田稲作とともに、赤褐色で薄手の土器が広まった。
2. 仏教が伝来し、寺院の屋根を飾るための瓦を焼く技術が初めて日本列島に導入された。
3. 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。
4. 表面に縄目の文様を施し、食料を煮炊きするための厚手の土器が各地で作られた。

問5　5世紀、ヤマト王権の「倭の五王」は中国の南朝（宋など）に繰り返し使者を送りました。中国側の歴史書『宋書』倭国伝に記されている、彼らが朝貢を通じて中国皇帝に認めてもらおうとした地位や権限とはどのようなものですか。（2025年 沖縄県公立入試 類似）

1. 明との間で勘合を用いた貿易を行うための独占的な権利
2. 遣隋使の派遣を永続的に免除される特権
3. 鎖国体制を維持するために、他国との国交を断絶する公式な許可
4. 日本国内の支配権に加え、朝鮮半島南部における軍事的な指揮権

問6　5世紀ごろに大和政権の政治的影響力が日本各地に及んだことを示す、近畿地方を起点に全国へ普及した円形と方形を組み合わせた形状の古墳を何と呼ぶか。（2016年 神奈川県公立入試 類似）

1. 方墳
2. 装飾古墳
3. 円墳
4. 前方後円墳

問7　古代日本における漢字の伝来とその影響について述べた説明として、最も適切なものはどれですか。大陸から移住してきた人々の活動や、宗教的な背景を踏まえて選びなさい。（2026年 神奈川県公立入試 類似）

1. 縄文時代の交易を通じて大陸の文字が広まり、その後、仏教を理解するための補助的な記号として漢字が発明された。
2. 聖徳太子が大陸へ渡った際、現地で使われていた文字を日本独自の文字として持ち帰り、仏教の布教に用いた。
3. 平安時代の貴族が、仏教の教えを分かりやすく書き換えるために、漢字をもとにして日本で初めて文字を作成した。
4. 渡来人が仏教の経典とともに漢字を伝え、日本人が公的な記録や情報の伝達を行う手段として定着した。

問8　5世紀の日本において、埼玉県稲荷山古墳や熊本県江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に銘文として刻まれていた大王の名として正しいものを、次の選択肢の中から1つ選びなさい。（2025年 宮崎県公立入試 類似）

1. 中大兄皇子
2. ワカタケル大王
3. 聖徳太子
4. 卑弥呼

問9　5世紀頃に現在の大阪府堺市などに造られた大仙古墳のような巨大な前方後円墳について、当時の社会背景を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2024年 茨城県公立入試 類似）

1. 稲作の豊作を祈るために、特定の支配者を持たない集落の人々が共同で管理する祭祀場であった。
2. 東北地方から九州地方まで、各地域の有力な豪族が中央政権から完全に独立して統治していた。
3. 大和政権（ヤマト王権）の大王が、膨大な労働力を動員できる強力な支配権を及ぼしていた。
4. 渡来人がもたらした仏教の教えを広めるための寺院として機能していた。

問10　古墳時代に朝鮮半島から渡来人が渡ってきた時期の文化についての説明として、渡来人が伝えた土器の特徴を表しているものはどれですか。（2025年 岩手県公立入試 類似）

1. 低温で焼かれた、あつ手で褐色の縄文土器
2. 薄手でかたく、赤褐色をした弥生土器
3. 表面に縄目の文様がつけられた深鉢形の土器
4. 高温で焼かれた、かたくて灰色の須恵器

問11　埼玉県の稲荷山古墳から出土した、表面に「獲加多支鹵大王（ワカタケル大王）」という文字が金色の象嵌で刻まれた遺物について、その名称として正しいものを選んでください。（2021年 大阪府公立入試 類似）

1. 埴輪
2. 銅鏡
3. 鉄剣
4. 金印

問12　古墳時代に見られる、上から見ると鍵穴のような形（一方が四角く、一方が丸い）をした古墳の特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。（2021年 鹿児島県公立入試 類似）

1. 弥生時代に中国大陸から伝わった形式であり、主に北九州地方で多く見られる
2. 鎌倉時代に幕府の許可を得た武士のみが、自分の領地に築くことができた
3. 聖徳太子による冠位十二階の制定と同時に、身分を示す墓として推奨された
4. 近畿地方を本拠とする大和政権の拡大に伴い、各地の首長に受け入れられた形式である

問13　5世紀頃、近畿地方を中心とする大和政権（ヤマト王権）の支配が各地に広がっていったことを示す資料として、大阪府にある大山古墳（仁徳天皇陵）のような巨大な前方後円墳が築かれました。こうした時期に、地方の有力者の墓から出土したもので、大和政権の王の名称が刻まれていたとされる遺物はどれですか。（2017年 愛知県公立入試 類似）

1. 漢の皇帝から授けられたとされる金印
2. 近畿地方で多く見つかっている銅鐸
3. 装飾が施された石包丁
4. 王の名称が刻まれた鉄剣や鉄刀

答え合わせ・解説

問1	答え 1 人物埴輪と呼ばれ、当時の緊迫した東アジア情勢を反映した軍事文化を伝えている	古墳時代中期にあたる5世紀には、高句麗の南下による朝鮮半島の緊張状態が倭（日本）にも波及していました。古墳に副葬された武人などの人物埴輪は、当時の武具の構造を正確に伝えており、埋葬された豪族の軍事的な権威を誇示したり、死者の霊を守ったりする目的があったと考えられています。
問2	答え 2 中国の南朝	古墳時代の5世紀、ヤマト王権（倭国）の「讃・珍・済・興・武」という5人の王（倭の五王）は、当時の中国で南側に成立していた「南朝」の諸王朝（宋など）へ使節を送りました。これは、中国の皇帝から称号を得ることで、国内での支配権を固めるとともに、朝鮮半島における政治的・軍事的な立場を他国に対して有利に進める狙いがありました。
問3	答え 3 朝鮮半島南部における軍事的な指揮権の承認を得て、武器や農具の原料となる鉄資源を安定的に確保するため	5世紀の「倭の五王」は、中国の南朝へ遣使し、朝鮮半島南部での軍事的な優位性を認めさせることで、当時日本国内で産出できなかった鉄資源を安定して入手しようとしました。これにより、強力な武器や効率的な農具を生産し、半島諸国や国内の豪族に対して政治的な優位を保つ狙いがありました。
問4	答え 3 山の斜面を利用した穴窯を築き、高温で焼き上げる硬質の須恵器の製法が伝わった。	4世紀から5世紀にかけて、大陸や朝鮮半島から多くの渡来人が移住し、新しい技術を日本列島に伝えました。彼らは金属器の加工や織物の技術とともに、密閉された穴窯で焼成する須恵器の技術をもたらしました。この技術により、従来の土器よりも高い強度を持つ器の生産が可能となりました。他の選択肢は縄文時代、弥生時代、または飛鳥時代以降の出来事です。
問5	答え 4 日本国内の支配権に加え、朝鮮半島南部における軍事的な指揮権	5世紀になると、ヤマト王権の王たちは「倭の五王（讃・珍・済・興・武）」として中国の南朝に朝貢しました。彼らの主な目的は、日本国内の統一的な支配権を国際的に認めさせることだけでなく、当時進出を図っていた朝鮮半島南部における外交・軍事的な優位性を確保し、その立場を中国皇帝に正当化してもらうことにありました。
問6	答え 4 前方後円墳	前方後円墳は、円形と方形を連結させた日本独自の形状を持つ古墳です。5世紀にはその築造が最盛期を迎え、近畿地方から離れた地域でもこの形式が採用されたことは、各地の豪族が大和政権の支配体系に組み込まれていった過程を物語っています。
問7	答え 4 渡来人が仏教の経典とともに漢字を伝え、日本人が公的な記録や情報の伝達を行う手段として定着した。	朝鮮半島や中国大陸から移住した渡来人によって、漢字は仏教の経典とともに日本に伝えられました。当時、文字を持たなかった日本列島の人々は、これを受け入れることで歴史の記録や公的な文書の作成、そして宗教の理解を深めることが可能になり、日本の文明化に大きな影響を与えました。
問8	答え 2 ワカタケル大王	埼玉県の稲荷山古墳や熊本県の江田船山古墳からは、「ワカタケル大王（獲加多支鹵大王）」の名が刻まれた鉄剣や鉄刀が出土しました。これにより、5世紀後半にはヤマト王権の支配が関東から九州におよんでいたことがわかります。
問9	答え 3 大和政権（ヤマト王権）の大王が、膨大な労働力を動員できる強力な支配権を及ぼしていた。	近畿地方にある大仙古墳のような巨大な墳墓の築造には、極めて多くの人手と長い年月が必要でした。このような大規模な土木工事が可能であったことは、当時の大王が広い範囲にわたって人々を支配し、動員できるほど強力な権力を持っていたことを示しています。
問10	答え 4 高温で焼かれた、かたくて灰色の須恵器	渡来人は朝鮮半島から新しい技術をもたらしました。その一つとして、窯を用いて高温で焼き上げる、かたくて灰色の須恵器をつくる技術が伝えられました。
問11	答え 3 鉄剣	稲荷山古墳から出土したこの鉄剣には、115文字に及ぶ漢字が刻まれており、当時の政治状況や文字の使用状況を知る一級の史料となっています。刻まれた「獲加多支鹵大王」は、日本書紀や古事記に登場する雄略天皇を指すと考えられています。
問12	答え 4 近畿地方を本拠とする大和政権の拡大に伴い、各地の首長に受け入れられた形式である	前方後円墳は3世紀後半から造られ始め、大和政権（ヤマト王権）の拡大とともに全国へ普及しました。大阪府にある大山古墳（伝・仁徳天皇陵）のように世界最大級の規模を持つものもあり、これは当時の王の権力の強大さを物語っています。
問13	答え 4 王の名称が刻まれた鉄剣や鉄刀	5世紀の大和政権の王（大王）は、支配下に入った地方の有力者に対して、その地位を認める証として名前を刻んだ刀剣などを与えました。埼玉県（稲荷山古墳）や熊本県（江田船山古墳）といった遠く離れた地域の有力者の墓から、同じ王の名が刻まれた遺物が見つかっていることは、政権の勢力が関東から九州まで及んでいたことを裏付ける重要な証拠となっています。

古墳時代

名前

問1　5世紀頃、日本の王たちが中国の皇帝に使節を送った背景や目的として、最も適切な説明はどれですか。（2017年 鳥取県公立入試 類似）

1. 仏教を日本に広めるために、中国から高僧を招くとともに、寺院建築や経典などの進んだ文化を公的に導入するため。
2. 後漢の皇帝から「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かり、九州北部における小国の連合を束ねる権威を確立するため。
3. 中国の皇帝から地位の承認を得ることで、朝鮮半島での軍事的外交関係を有利に進めたり、高度な技術を導入して統治を強固にするため。
4. 遣唐使を廃止することで大陸との交流を制限し、日本独自の国風文化を育むとともに、律令国家の形成を早めるため。

問2　4世紀から7世紀にかけて、近畿地方の有力な一族を中心として組織され、日本の大部分を統治した政治組織の仕組みについて述べたものとして最も適切なものはどれですか。（2022年 茨城県公立入試 類似）

1. 貴族が摂政や関白の職を独占し、天皇に代わって政治の実権を握る体制がとられた。
2. 大王（おおきみ）と呼ばれる首長を中心として、各地の有力な豪族が連合して構成された。
3. 漢の皇帝から授けられた金印を持つ王が、中国の王朝に対して朝貢を行うことで統治した。
4. 地方の武士が幕府を開き、土地の支配権を保証することで全国の武士を統制した。

問3　3世紀後半から6世紀にかけて、北は東北地方から南は九州地方まで、日本列島の広範囲にわたって鍵穴のような独特な形をした巨大な墓が築造されました。このような墓が各地に共通して造られた背景として、当時の政治状況を説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2026年 沖縄県公立入試 類似）

1. 大和地方の人口が急激に増加したため、有力な豪族が新天地を求めて東北や九州へ集団移住した際の住居の跡地である。
2. 仏教の伝来とともに、日本全国の豪族が共通の宗教儀礼を行うための寺院の土台として、同じ形状で設計された。
3. ヤマト王権に従った各地の豪族が、王権との結びつきを周囲に示すとともに、自らの権力を誇示するために築造を認められた。
4. 大陸から渡来した人々が、最新の土木技術を日本各地の民衆に広めるための記念碑として、公共事業の一環で築造した。

問4　5世紀の日本において、倭の五王と呼ばれる王たちが中国の南朝へ繰り返し使節を送った目的として、最も適切な説明はどれですか。（2017年 長野県公立入試 類似）

1. 平城京を造営するためのモデルとして、中国の都の仕組みを詳しく調査するため
2. 沿岸部で活動し周辺諸国を苦しめていた倭寇を取り締まるよう、中国から要請を受けたため
3. 中国皇帝から王としての国際的な地位を認められ、朝鮮半島南部での立場を有利にするため
4. 白村江の戦いで唐・新羅の連合軍に勝利するための軍事同盟を、中国の王朝と結ぶため

問5　5世紀の日本において、埼玉県稲荷山古墳や熊本県江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に銘文として刻まれていた大王の名として正しいものを、次の選択肢の中から1つ選びなさい。（2025年 宮崎県公立入試 類似）

1. ワカタケル大王
2. 聖徳太子
3. 卑弥呼
4. 中大兄皇子

問6　倭の五王の一人である「武」は、中国の南朝の皇帝に上表文（手紙）を送り、自らの祖先がいかにして国土を広げたかを伝えました。この「武」は、日本の歴史上のどの人物であると比定（推定）されていますか。（2024年 大阪府公立入試 類似）

1. 中大兄皇子（天智天皇）
2. ワカタケル大王（雄略天皇）
3. 卑弥呼
4. 聖徳太子（厩戸王）

問7　古代の日本において、ヤマト政権が朝鮮半島諸国との外交や軍事活動を通じて、他勢力に対し優位に立つために最も獲得を重視した資源はどれか。（2020年 鳥取県公立入試 類似）

1. 武器や農具の材料となる鉄
2. 外交の儀礼に用いられる仏教の経典
3. 貨幣の原料となる金や銀
4. 権威を象徴するための金印や銅鏡

問8　3世紀、邪馬台国の女王である卑弥呼は、中国の魏へ使いを送り「親魏倭王」の称号を授かりました。このように、当時の倭の勢力が中国の王朝へ朝貢を行った政治的な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2025年 沖縄県公立入試 類似）

1. 幕府が定めた禁教政策を東アジア全域に広めるための協力を仰ぐため
2. 遣唐使を停止したことによる文化的な遅れを取り戻すため
3. キリスト教の布教を阻止するために、中国からの軍事支援を取り付けるため
4. 中国皇帝の権威を背景にすることで、国内の諸勢力に対する支配力を高めるため

問9　5世紀頃、近畿地方を中心とする大和政権（ヤマト王権）の支配が各地に広がっていったことを示す資料として、大阪府にある大山古墳（仁徳天皇陵）のような巨大な前方後円墳が築かれました。こうした時期に、地方の有力者の墓から出土したもので、大和政権の王の名称が刻まれていたとされる遺物はどれですか。（2017年 愛知県公立入試 類似）

1. 装飾が施された石包丁
2. 近畿地方で多く見つかっている銅鐸
3. 漢の皇帝から授けられたとされる金印
4. 王の名称が刻まれた鉄剣や鉄刀

問10　5世紀ごろ、大和政権（ヤマト王権）の支配が関東地方や九州地方まで及んでいたことを示す歴史資料があります。埼玉県の稲荷山古墳や熊本県の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に、その名が刻まれていた人物として正しいものを選びなさい。（2019年 愛媛県公立入試 類似）

1. 聖徳太子
2. 卑弥呼
3. ワカタケル大王
4. 中大兄皇子

問11　日本最大級の規模を誇る前方後円墳である大仙古墳（大山古墳）が位置する場所として正しいものはどれですか。日本全国をいくつかの地域に分けた際、現在の大阪府堺市が含まれる地方の名称を選択しなさい。（2024年 茨城県公立入試 類似）

1. 近畿地方
2. 東北地方
3. 九州地方
4. 関東地方

問12　埼玉県の稲荷山古墳から「ワカタケル大王」の名が刻まれた鉄剣が出土し、また熊本県の江田船山古墳からも同じ大王の名が刻まれた大刀が出土しました。これらの史料から推測できる、5世紀後半の日本列島の状況として最も適切な説明を選びなさい。（2024年 大阪府公立入試 類似）

1. 仏教の教えが全国に広まり、各地の豪族が鉄剣を寺院に奉納していた。
2. 各地域の豪族が独自に強力な軍隊を持ち、ヤマト政権と激しく対立していた。
3. ヤマト政権の政治的な支配力が、関東地方から九州地方まで及んでいた。
4. 稲作の技術が伝わったことで、日本列島各地で小国家の統一が始まった。

問13　大阪府堺市に位置し、三重の堀に囲まれた巨大な鍵穴のような形状を持つ、日本最大級の面積を誇る古墳の名称として正しいものを選びなさい。（2018年 長崎県公立入試 類似）

1. 大仙（大仙陵）古墳
2. 高松塚古墳
3. 江田船山古墳
4. 稲荷山古墳

答え合わせ・解説

問1	答え 3 中国の皇帝から地位の承認を得ることで、朝鮮半島での軍事的外交関係を有利に進めたり、高度な技術を導入して統治を強固にするため。	5世紀の「倭の五王」は、中国の南朝へ繰り返し使節を派遣しました。当時の倭王は、朝鮮半島における軍事的な指揮権を含む称号を中国の皇帝から授かることで、国際的な地位を確立し、周辺諸国との外交を有利に進める狙いがありました。また、これに伴い鉄製武器の製造技術や須恵器などの新しい技術を大陸から導入し、国内の支配力を高めていきました。
問2	答え 2 大王（おおきみ）と呼ばれる首長を中心として、各地の有力な豪族が連合して構成された。	4世紀頃に近畿地方を拠点として成立した大和政権は、豪族と呼ばれる有力な一族が連合して形成された組織です。その中心には「大王（おおきみ）」と呼ばれる世襲の王が君臨し、有力な豪族たちは職務を分担して政権を支えました。この体制は、後の律令国家へと発展していく基礎となりました。
問3	答え 3 ヤマト王権に従った各地の豪族が、王権との結びつきを周囲に示すとともに、自らの権力を誇示するために築造を認められた。	前方後円墳という特定の形状が日本各地に広がった事実は、当時のヤマト王権を中心とした政治的な連合が広範囲に及んでいたことを示しています。各地の有力な豪族は、ヤマト王権の支配体制に組み込まれることで、その象徴である前方後円墳を築く許可を得て、自身の支配権を正当化しました。渡来人の技術は築造に関わっていますが、目的は公共事業ではありません。また、古墳は住居ではなく墓であり、仏教伝来以前の文化です。
問4	答え 3 中国皇帝から王としての国際的な地位を認められ、朝鮮半島南部での立場を有利にするため	5世紀の古墳時代、倭の五王は中国の南朝に朝貢しました。当時の倭の王は、大陸の強大な王朝から「倭王」としての称号（冊封）を得ることで、自身の権威を国内外に示すとともに、鉄資源の供給地として重要だった朝鮮半島南部における外交的・軍事的な優位性を確保しようと考えました。
問5	答え 1 ワカタケル大王	埼玉県の稲荷山古墳や熊本県の江田船山古墳からは、「ワカタケル大王（獲加多支鹵大王）」の名が刻まれた鉄剣や鉄刀が出土しました。これにより、5世紀後半にはヤマト王権の支配が関東から九州におよんでいたことがわかります。
問6	答え 2 ワカタケル大王（雄略天皇）	倭の五王の最後の一人である「武」は、埼玉県で見つかった稲荷山古墳の鉄剣銘などに記された「獲加多支鹵大王（ワカタケル大王）」、すなわち雄略天皇であると考えられています。この時期、ヤマト政権の支配範囲が関東から九州にまで及んでいたことが、金石文と中国の歴史書の両方の記述から裏付けられています。
問7	答え 1 武器や農具の材料となる鉄	当時の日本列島では鉄の原料を十分に自給できず、朝鮮半島からの供給に依存していました。鉄は強力な武器を作るだけでなく、開墾や土木作業に不可欠な農具の材料でもあったため、鉄を安定確保することは、軍事力と農業生産力の両面において政権の基盤を固めるために極めて重要でした。
問8	答え 4 中国皇帝の権威を背景にすることで、国内の諸勢力に対する支配力を高めるため	3世紀の日本はまだ統一国家ではなく、多くの小国が対立する状況（倭国大乱など）にありました。卑弥呼は中国の強大な王朝である「魏」から称号や金印、銅鏡などを授かることで、その権威を国内に示し、自らの統治能力や地位をより強固なものにしようとしました。これは外交を利用した国内統治の強化という側面を持っています。
問9	答え 4 王の名称が刻まれた鉄剣や鉄刀	5世紀の大和政権の王（大王）は、支配下に入った地方の有力者に対して、その地位を認める証として名前を刻んだ刀剣などを与えました。埼玉県（稲荷山古墳）や熊本県（江田船山古墳）といった遠く離れた地域の有力者の墓から、同じ王の名が刻まれた遺物が見つかっていることは、政権の勢力が関東から九州まで及んでいたことを裏付ける重要な証拠となっています。
問10	答え 3 ワカタケル大王	埼玉県の稲荷山古墳や熊本県の江田船山古墳から出土した文字が刻まれた鉄剣・鉄刀には、大和政権の「ワカタケル大王」という名が記されていました。同一人物の名が刻まれた遺物が関東と九州の双方で見つかったことは、5世紀後半には大和政権の支配力が日本列島の広範囲に及んでいたことを証明する重要な根拠となっています。
問11	答え 1 近畿地方	5世紀頃、現在の大阪府や奈良県などを含む近畿地方を中心に、巨大な前方後円墳が数多く造られました。大仙古墳は、当時の大和政権（ヤマト王権）の首長である大王の権力を象徴するものであり、現在の大阪府堺市に位置しています。
問12	答え 3 ヤマト政権の政治的な支配力が、関東地方から九州地方まで及んでいた。	遠く離れた関東（埼玉県）と九州（熊本県）の両地域から、同一の大王の名を刻んだ刀剣が見つかったことは、当時のヤマト政権が広範囲の豪族を服属させ、統治下に置いていたことを示す重要な歴史的証拠となっています。単なる交易の証拠ではなく、地方の豪族が大王に仕えていたという政治的な背景を裏付けています。
問13	答え 1 大仙（大仙陵）古墳	堺市にあるこの古墳は、仁徳天皇の墓とも伝えられている日本最大の前方後円墳です。三重の堀に囲まれたその巨大な規模は、当時の大王（おおきみ）が持っていた強大な権力を物語っています。